

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年9月15日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策
作物	<p>水稲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期は平年に比べ1〜3日程度遅かったが、8月以降の高温等により、成熟期は逆に1〜3日程度早まっている。 ・穂数、稈長、穂長等は平年並程度である。 ・穂いもちの発生が一部見られる。また、トビイロウンカの発生が例年より多い。 ・現在収穫中のコシヒカリは、台風9号・10号等の強風により、全果的に倒伏しているほ場が多い。 ・収穫は順次行われているが、ほぼ例年並で進捗している。 【農業試験場状況】 ・早期(5月11日)田植(ひとめぼれ・コシヒカリ) 出穂期は平年比3日程度遅かったが、成熟期は平年並〜1日程度遅くなった。稈長・穂長はやや長かったが、穂数はやや少なかった。 ・普通期(5月25日)田植(コシヒカリ・星空舞・きむむすめ) 出穂期はやや遅かったが、コシヒカリ・星空舞の成熟期は平年比4日程度早くなった。きむむすめは、現在黄熟期である。コシヒカリ・星空舞の稈長は平年並〜やや短かったが、穂数は平年並〜やや多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫時期を迎えたほ場では過期収穫を行う。 ・出穂後30日を経過したほ場では、落水し、コンバイン収穫に備える。 ・出穂後30日を迎えていないほ場では、間断かん水を断行し、コンバイン収穫に備えて田面の硬さを維持する。 ・トビイロウンカが要防除水準(成幼虫数10頭/株)を超えた場合は、農薬の使用基準(収穫前日数及び総使用回数)に留意しながら防除する。なお、収穫期が迫り防除ができないほ場は収穫過期の範囲内で早めに収穫する。
	<p>大豆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育状況は、6月上中旬までの播種は平年並で子実肥大が進んでいるが、6月下旬以降の播種で、豪雨による湿害の影響を受けたほ場では生育量が小さく、生育の進捗もやや遅くなっている。 ・7月以降、梅雨明けが遅れた影響で播種可能日が少なかったため、播種が8月以降となったほ場も多く、9月上旬(播種後1ヶ月未満)で生育量が小さいにもかかわらず開花する状況が見られた。 ・8月上旬の梅雨明け以降に高温と無降雨が継続した影響で、開花期間中の干ばつによって、畝間かん水が必要なほ場もあった。 ・吸害性カメムシ類の被害や、ハスモンヨトウによる被害が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風や秋雨に備えて、排水対策を継続して実施する。 ・カメムシ及びハスモンヨトウ等の発生に留意し、必要に応じて、病害虫防除を追加する。 ・播種が遅い場合は、慣行の6月播種と比較して、防除適期の開花前後日数が異なる可能性があるため、着実状況等の生育進展に留意する。
果樹	<p>ナシ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「二十世紀」の選果は、9月16日でほぼ終了する見込み(いなば広域は9月18日終了)。 ・本年の「二十世紀」は、昨年と比べると、やや小玉傾向で3L以上の大玉の割合は39%であった(昨年では55%)。 ・*9月12日全農調べ2L(26%)、3L(27%)の割合がほぼ同じ。 ・二十世紀の品質低下の分類としては過熟、水梨の発生やアザによる汚れであり、これらが例年より多い傾向。 ・台風9号(最接近9月3日)、台風10号(最接近9月7日)による落果被害は果全体で1〜3%程度となった。 ・「新甘泉」は台風10号の接近前にほぼ収穫が終了。「秋甘泉」は大きな問題なく終了する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・晩生梨は、台風前に備えて落果防止剤の散布、棚の補強等を行う。 ・引き続き、カメムシの防除に気を付ける。
	<p>カキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輝太郎」の着色初めは8月25日で平年並み(平年8月25日)。 ・9月11日取りまとの作況調査の結果では前年より果実肥大がやや遅れている。 ・「輝太郎」の生理落果は例年、8月下旬に終わるが本年は9月上旬まで長引いた。 ・「輝太郎」の目合わせ会9月24日、「西条」の目合わせ会は9月25日に開催予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「西条」「輝太郎」では、シルバーマルチの敷設を徹底し、着色促進及び品質向上を図る。 ・台風にも備え、防風対策を徹底する。 ・引き続き、カメムシの防除を徹底する。
	<p>ブドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シャインマスカット」の査定会が8月28日に開催され、9月3日より出荷販売が始まっている。 ・台風被害もなく、糖度・食味も良く販売は好調である。 ・カスリ症によるアザが一部園で発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良はほぼ平年並みの9月下旬頃より実施される見込みである。 ・収穫後防除を徹底し、病害虫の越冬密度を減らす必要がある。
野菜	<p>白ねぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 ・高温、干ばつで生育停滞していたが、9月中旬になり気温低下と降雨で生育再開し始めた。台風で一部傾きは見られたが、生育への影響は少なく、概ね順調。 【夏ねぎ】 ・弓浜地区を中心に出荷中のもは高温乾燥の影響で肥大が進まず、L規格中心の出荷となっている。 ・山間地の8月収穫作型は高温のため最終土寄せが遅れ、例年より約2週間遅く9月上旬からの出荷となっている。 【秋冬ねぎ】 ・8月の高温、干ばつの影響で生育が2〜3週間遅れている。春ねぎと同様に、9月中旬になり気温低下と降雨で生育再開し始めた。土寄せを再開し作業が進められている。 ・台風9号、10号による強風で、葉折れや傾きの被害があったがほとんどは軽微であり影響は少ない。 【病害虫】 ・乾燥の影響でネギアザミウマの被害が例年より多く見られる。また、ハスモンヨトウの被害が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨の増加、気温の低下に伴い、白絹病、べと病、さび病が発生するため防除を徹底する。 ・病害虫発生予察情報では、ハスモンヨトウの発生が多いとされているため、防除を徹底する。 ・夏ねぎで収穫期を迎えるものは病害の蔓延を防ぐため早期に収穫する。 ・秋冬ねぎは土寄せ、追肥等の管理を再開する。管理再開後はこまめに土寄せするなど生育を促進する。 ・秋雨で降雨が続くと軟腐病の発生が懸念されるため、排水対策を徹底する。 ・台風にも備え、事前に倒伏、葉折れ防止の紐(ハスバンド等)を張る。
	<p>ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> 【秋冬どり】 ・定植は全体の約5〜6割程度が終了。 ・かん水可能なほ場では安定して活着し生育が進んでいるが、かん水できないほ場は定植時期を遅らせたりほ場を変更するなど、定植が計画より遅れている。また、かん水していないほ場では一部で枯死株が発生している。 ・台風9号、10号による強風で定植済みの株がやや傾いたが生育への影響は少ない。 ・ハスモンヨトウの発生が平年よりも多く、アザミウマ、タマネギウツワバも散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定植は10月中旬まで続く見込み。 ・気温が低下し、適度な降雨が見込めるため生育が回復し進む見込み。 ・今後の台風の進路に注意し、場合によっては台風が通過してから定植する。 ・台風等による大雨や秋雨(長雨)に備え、明渠など排水対策を徹底する。 ・秋雨により蒸す病、細菌病等の発生が懸念されるため、予防防除を徹底する。 ・病害虫発生予察情報では、ハスモンヨトウの発生が多いとされているため、防除を徹底する。
	<p>ながいも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回生育調査(9月10日)では、長芋芋重890.1g(平年比83%)、ねばりっ芋重783.7g(平年比85%)で、8月の干ばつの影響で両品種とも平年より肥大が劣るが、前年よりははやい。 ・炭疽病による茎葉の枯れ込みは例年より少ないが、台風10号の強風で葉傷みと炭疽病で枯れ込みが進んだほ場が一部ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月17日〜10月中旬にかけて、アクの発生調査予定。アクの状況を見て収穫開始時期を判断、11月から出荷見込み。
	<p>らっきょう</p> <ul style="list-style-type: none"> 【福部地区】 ・定植は8月で概ね終了したが、植付後の干ばつ、高温の影響で生育の遅れが見られる。 ・台風9号、10号の強風で、産地の3割程度が飛砂で埋没し、目立ちが遅れている。 ・植付けの早いほ場でハモグリハエの発生が見られるが、大きな影響はない。 【北条地区】 ・大玉系は早いほ場で7月中旬から、分球系は8月中旬から植え付けが始まっている。 ・高温乾燥が続いているが、スプリンクラーかん水により順調に生育、生育している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛砂で埋没した種球は速やかに掘り起こし、出芽を促す。 ・生育初期のネギハモグリハエの防除が遅れないよう徹底する。
	<p>夏秋トマト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の収穫は7〜8段中心で、高温期の開花で不着果、花落ちがあり、出荷量が少なくなっている。これまでの出荷量は前年対比107%、販売額は121%で1億円を突破した。 ・葉かび病、すすかび病の発生が多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温度の低下に伴い、今後は出荷量が減少してくる見込み。 ・裂果軽減のためかん水量の急激な変化がないよう管理する。 ・気温低下とともに灰色かび病、オンシツコナジラミの発生増加が想定されるため、適期防除を徹底する。
	<p>抑制ミトマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷盛期となっている。高温で交配用のマルハナバチの活動が悪く、着果が悪い傾向がある。品質は特に問題ない。 ・すすかび病、斑点病の発生が見られ始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温低下に伴い、平年と同様に今後出荷量は減少する見込み。 ・秋雨で湿度が高くなると葉かび病、すすかび病などが蔓延しやすいため、予防防除を徹底する。
	<p>アスパラガス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温、干ばつにより8月から9月初旬にかけて奇形の発生が多く、出荷量が例年より少ない。 ・降雨がほとんどなかったため、例年と比較して茎枯病が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は10月上旬頃まで続く見込み。最終収量は昨年を下回る見込み。 ・十分な株養成ができるよう、茎枯病、斑点病の防除を引き続き徹底する。
	<p>にんじん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月11日から播種が始まり、9月上旬で終了。8月播種は高温、干ばつの影響で発芽が遅れ、3日程度生育が遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温低下と適度な降雨で生育は回復する見込み。 ・秋雨の連続降雨による湿害、根腐みを回避するため、排水路の整備などの対策を行う。
花き	<p>シンテッポウユリ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【露地彼岸出し作型】 【倉吉市】 ・9月上旬より出荷が始まっている。晩生品種を栽培しているため、草丈は1m以上と高い。 【北条町】 ・1戸が栽培しており、9月3日から出荷開始。 【ハウス抑制作型】 【倉吉市】 ・生育は順調。抽台率は国内産実生苗が80〜90%、中国産実生苗は約50%。 【北条町】 ・北条町での9月3日時点の平均抽台率は71%。平年(65%)より高いが、昨年(78%)より低い。9月13日から出荷が始まっている。目立った病害虫の発生は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉枯病の防除を徹底する。
	<p>トルコギキョウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【抑制作型】 【智頭町】 ・1戸が自家育苗で栽培中。30%程度出荷済み。日量は300〜500本程度。 【倉吉市】 ・生育順調。9月上旬より出荷開始。 【北条町】 ・日商で育苗した準高冷地育苗苗は順調に生育し、出荷がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウ目害虫、スリップス類の発生に注意し、適宜防除を行う。
	<p>ストック</p> <ul style="list-style-type: none"> 【中部地区】 【倉吉市】 ・一番早い作型(7月25日播種)で草丈20cm程度。その他のほ場でも、順次九重鑑別等の管理が行われており、おおむね順調に生育している。 ・ほ場によりキシジノミハムシと思われる被害が見られる。 【北条町】 ・一部ほ場で発芽不良が見られたが、概ね順調に発芽した。生育は特に問題なし。ハイマダラのメイガが散見される。 ・7月の曇天で還元土壌消毒の効きが悪く、雑草の発生が例年より多い。 ・7月25日播種のホワイトアイアンは葉枚数66枚で花芽は未分化。 【大山町】 ・発芽率は平年並みである。早い作型の一部に複数の生産者でネコブセンチュウによる被害が見られる。また、一部で立ち枯れ病が見られ補植が行われている。 ・9月9日現在、7月18日播種のピンクアイアン、7月22日播種のホワイトアイアン、7月22日播種のスプリンターホワイトの花芽分化は確認されなかった。9月14日にはスプリンターホワイトで一部に出蕾が認められている。 【伯耆町】 ・花芽分化は平年より遅れ気味である。(7月15日播種作型は平年は8月28日であるが、8月28日〜9月7日花芽分化、7月25日播種作型では平年は9月7日であるが、9月11日花芽分化。) ・目立つ病害虫被害は見られず生育自体は順調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシやチョウ目害虫の防除を徹底する。 ・気温が低下しており、特に夜温が平坦部でも20℃を下回るようになっており、順次花芽分化に入ると思われる。 ・伯耆町では花芽分化がやや遅れ気味の部分もあり、草丈は確保できる見込み。
	<p>アスター</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ハウス抑制作型】 【北条町】 ・概ね順調であるが、一部ほ場で立枯病の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハダニ類・ヨトウ類の防除を徹底する。
	<p>キク</p> <ul style="list-style-type: none"> 【露地コギク】 【倉吉市】 ・生育は順調。彼岸出荷に向けて切り前の品種のあれば未着蕾の品種もある。 	
畜産	<p>飼料用トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【鳥取・八頭地区】 ・8月29日に計画どおり収穫終了。作付面積47ha、うち鳥取県畜産農協収穫作業受託分は45ha。収量は前年より減少傾向。 【倉吉地区】 ・9月10日時点で81.9haのうち80.2ha収穫終了。うち倉吉コントラ受託分67.7haは9月10日に収穫終了。 【東伯】 ・琴浦町のほ場4haでツマジロクサヨトウによる被害が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯】 ・防除は実施せず前倒しで収穫予定。
	<p>イタリアンライグラス、飼料用稲等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飼料用稲WCS 【鳥取・八頭地区】 ・9月3日に鳥取市で収穫開始。 【東伯地区】 ・9月12日時点で収穫進捗率45%程度。天候良好で作業順調。 【西部地区】 ・米子市で収穫開始。生育は平年並み。 ○飼料用米SGS 【鳥取・八頭地区】 ・9月7日に鳥取県畜産農協施設に農家から持ち込まれた飼料用米を、SGS(もみ米のサイレージ)へ調整開始。まずは1戸70a分実施。本格稼働開始は9月下旬。 ○他牧草 8月19日、28日に湖山地区牧草の3番草収穫。 	
その他	<p>農作業安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月10日広島気象台発表の中国地方の1ヶ月予報では、1週目の気温は高く、2週目は平年並みが高く、3〜4週目は高いと予想されている。 ・例年9月にも残暑影響で熱中症の発生がみられることから、引き続き農作業中の熱中症に注意を要する。 	<p>【予防方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。 ・休憩をこまめにとり、作業時間を短くする。特に気温が高くなりやすいハウス内の作業は注意する。 ・作業するハウスは、できるだけ換気に努める。 ・日射を防ぐ服装をする。通気性の良い素材の長袖シャツと長ズボンを着用し、つばの広い帽子などを被る。 ・マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。 ・気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。 ・マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。 ・農作業の際には水、水(保冷剤)、濡れタオル等を持参し、汗で失われた水分を十分に補給するため水分をこまめに摂取する。また、汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。